

ツ」みたいなものです。「英語で書く技術」の究極は、「日本語で書くように英語で書く技術」。日本語で書くときに当たり前のよう実践している「コツ」を思い出し、理解し、そして英語でも実践できるようにすればいいのです。

必ず手は届きます。

新版にあたり

本書「こなれた英文を書く技術」の初版が発行されてから、10年が経ちました。「日本語英語」や「間違っではないけれども今一步の英語」を「よりナチュラルで分かりやすい、こなれた英文」へとステップアップさせるための方法論に焦点を当てたこの本は、多数の読者に受け入れていただき、10回以上も増刷を重ね、そしてこのたび新版のご提案をいただきました。1999年に一冊目の本を世に送り出して以来二十冊近く書いてきましたが、このようなことは初めてであり、感謝の気持ちでいっぱいです。

新版には以下を施し、旧版からの更なる前進を試みました。

1. 8つのテクニックを新たに執筆し、追加。(計83のテクニックに)
2. 2つのチャプターを全面改訂。
3. 全編を通し、解説部分を洗練。英文も全て再精査。

この10年間、塾長を務めるひなみ塾の英語クラスの講義を中心にコツコツと積み重ね、力を蓄えてきました。その成果を凝縮し、改訂に反映させるべく最善を尽くしました。この本を手にとってくださって、ありがとうございます。

黒川裕一

CONTENTS

はじめに	3
総合解説	9
本書の使い方	14

Chapter 1 一語で文を「締める」ワザ 15

テクニック 1 「限定」の only, just	16
テクニック 2 「その時点までに」の yet	20
テクニック 3 「強調」の even	24
テクニック 4 「少しでも」「一つでも」「どれでも」の any	28
テクニック 5 「例外なし」の every	32
テクニック 6 「全体」の all	36
テクニック 7 読み手に「先入観」を持たせる副詞(句)	40

Chapter 2 ニュアンスをはっきりさせるワザ 45

テクニック 1 定冠詞と指示形容詞 (the や this, that など)	46
テクニック 2 時制①…進行形	50
テクニック 3 時制②…完了形	54
テクニック 4 動詞と副詞を組み合わせる	58
テクニック 5 意志を表す will	62
テクニック 6 must と have to	66
テクニック 7 助動詞の完了形①… should have	70
テクニック 8 助動詞の完了形②… could have	74
テクニック 9 助動詞の完了形③… might have, may have	78
テクニック 10 助動詞の完了形④… must have	82
テクニック 11 目的補語を活用する	86
テクニック 12 不定詞や分詞の主語を明確にする	90

テクニック 13	こちらの感情を前もって伝える	94
テクニック 14	引用符を活用する	98

Chapter 3 文をすっきりさせるワザ 103

テクニック 1	無用な繰り返しを避ける	104
テクニック 2	「同時」の with	108
テクニック 3	分詞を活用する	112
テクニック 4	分詞構文を活用する	116
テクニック 5	It ① …時間の it	120
テクニック 6	It ② …仮主語の it	124
テクニック 7	It ③ …仮補語の it	128
テクニック 8	疑問詞 + 不定詞	132
テクニック 9	名詞と動詞・形容詞の互換	136
テクニック 10	受動態と能動態	142

Chapter 4 メリハリをつけるワザ 147

テクニック 1	コンマ	148
テクニック 2	コロソ	152
テクニック 3	セミコロソ	158
テクニック 4	挿入	164
テクニック 5	導入	170
テクニック 6	話題の転換と関連づけ	174
テクニック 7	因果関係	178
テクニック 8	展開	184
テクニック 9	対照	190
テクニック 10	結論	196

Chapter 5 ポイントを強調するワザ 201

テクニック 1	強調① …強調の副詞	202
テクニック 2	強調② …構文	206
テクニック 3	譲歩	210
テクニック 4	反語	214
テクニック 5	倒置	218
テクニック 6	皮肉	222
テクニック 7	事実	226
テクニック 8	否定語①	230
テクニック 9	否定語② …より強力な否定語	234
テクニック 10	主語を意図的に選択する	238

Chapter 6 表現を生き生きとさせるワザ 243

テクニック 1	形容詞 (句) を加える	244
テクニック 2	実例を挙げる	248
テクニック 3	比喩	252
テクニック 4	同格① …コンマを使って	256
テクニック 5	同格② …of や that などを使って	260
テクニック 6	比較①	264
テクニック 7	比較② …慣用表現	268
テクニック 8	関係詞①	272
テクニック 9	関係詞② …前置詞との組み合わせなど	276
テクニック 10	関係詞③ …先行する文全体を受ける “which”	282
テクニック 11	関係詞④ …主語を自在に膨らませる	286
テクニック 12	「程度」の付与	290
テクニック 13	「条件」の付与	294
テクニック 14	「目的」の付与	298
テクニック 15	「結果」の付与	302

Chapter 7 断定を避けるワザ 307

テクニック 1 思う・考える	308
テクニック 2 「~のようだ」	312
テクニック 3 可能性の副詞	316
テクニック 4 頻度・習慣の副詞	320
テクニック 5 程度の副詞	324
テクニック 6 判断の副詞	328
テクニック 7 限定	332
テクニック 8 部分否定	336
テクニック 9 「漠然」の some	340

Chapter 8 読み手に配慮するワザ 345

テクニック 1 you を含む主語にする	346
テクニック 2 it や there を主語にする	350
テクニック 3 第三者を主語にする	354
テクニック 4 時や条件の付与	358
テクニック 5 部分的合意	362
テクニック 6 仮定法	366
テクニック 7 could と would	372
テクニック 8 要求から依頼への言い換え	376
おわりに	385

総合解説

Chapter 1

一語で文を「締める」ワザ たった一語でどう変わる? 15

That was the worst traffic accident in Japan.

それは日本における最悪の交通事故だった。

→ That was the worst traffic accident **yet** in Japan.

それは日本におけるそれまでで最悪の交通事故だった。

「それは日本における最悪の交通事故だった」に yet を一語加えてみましょう。「最悪」から「それまでで（史上）最悪」へ、わずか一語の違いですが、これだけで「最悪」の意味内容がぐっとはっきりします。たった一語で文に命を吹き込めるのですから、実にカンタン、おトク。「ワンランク上のこなれた英文」を目指すウォーミングアップに最適です。

一語を加えるだけで、言いたいことや文全体の雰囲気をもより鮮明に。この章では、そのためのワザを紹介します。

Chapter 2

ニュアンスをはっきりさせるワザ 無用な誤解はどう避ける? 45

Dan came home alive from Vietnam.

Dan はベトナムから生きて帰って来た。

→ **To my surprise**, Dan came home alive from Vietnam.

驚いたことに、Dan はベトナムから生きて帰って来た。

「Dan はベトナムから生きて帰って来た」だけでは、単なる事実の記述。こちらがそれに対してどう感じているかを、読み手は知りたがっているはず。そこで to my surprise を挿入。これだけで、Dan の生還に対してこちらが驚いていることが明らかになります。